

## 1 習得に重点をおいた時間(1, 2, 4年生の実践)

基礎的・基本的な知識・技能を確かに習得させるための授業づくりを目指して実践を行っている。

### ペア・グループを効果的に取り入れた伝え合いで全員が分かる喜びを！

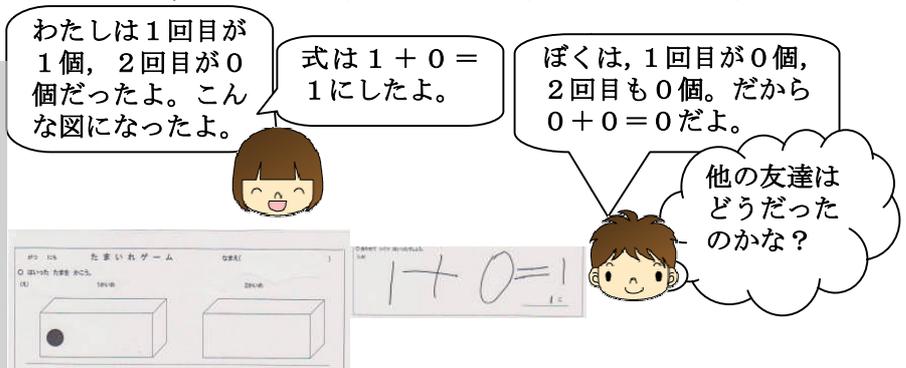
1時間の授業の中で、どこでペアやグループ学習を取り入れたら効果的な習得ができるかを考えて授業を構成した。そして温かい人間関係のもとで、全員が参加でき、認め合える授業づくりを目指した。

#### 1年「0のたし算」

グループでゲーム→個人・ペアでワークシート・ブロック操作→全体で発表、振り返り

授業の導入で、グループで玉入れゲームを行い、本時の学習への興味づけを行った。

次にその結果をワークシートに図や式で表す活動を行い、ペアで確かめた。自分の玉入れの結果をわくわくドキドキしながら伝え、友達の結果の図や式も興味をもって確かめることができた。



ペアでの伝え合いが自信となり、全体の発表の場では、ふだんあまり発表しない児童もみんなの前で堂々と発表することができた。



ペアでの伝え合い

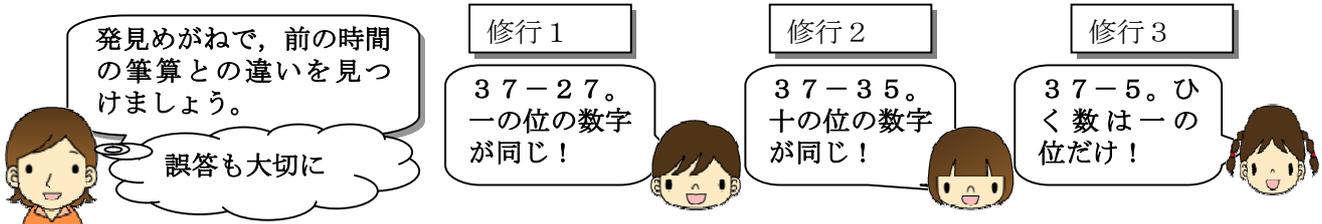


自信をもち、堂々と発表する児童

#### 2年「ひき算の筆算」

全体→グループで教え合い→全体で確認→個人で練習問題→ペアで答え合わせ→全体でまとめ・振り返り

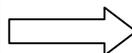
まず、1問目の問題を出して、全体で既習の学習との違いを確認した。次に、ひき算の筆算のスーパー名人になるためには3パターンの筆算の問題を解いていくことを伝え、グループで教え合い活動を取り入れた。



<グループで教え合い後、全体でやり方を確認する場面>



発表中に困った児童を  
グループの友達が応援



友達の応援のおかげで  
にこにこ発表

練習問題ができた順番にペアを組み、答え合わせを行った。児童は、練習問題ができた時点でペアを組むことになり、練習問題ができた喜びとどの友達とペアを組むことになるかという楽しみを同時に感じていたようだ。いろいろな友達と交流しながら答え合わせをして、間違いに気付いたり友達の説明を聞いたり自分で説明したりすることで理解をより確かなものにし、満足した時間を過ごすことができた。



ペアで練習問題の答え合わせを  
し、やり方の説明をする児童



練習問題2  
ペア交代でいろいろな  
友達と交流

#### 4年「折れ線グラフ」

**全体**でめあてをつかみ、グラフのかき方を確認→**個人**でワークシート→**ペア**でまとめ

導入で、笠岡の気温の表を提示した。児童は、既習の学習を生かして、他の都市の気温と比べ、折れ線グラフの必要性を訴えた。そして、本時は自分たちでグラフをかくというめあてを自然な流れでつかみ、大変意欲的に学習をスタートさせることができた。

めあてをつかむまでの**全体**での伝え合いが折れ線グラフをかく活動への興味関心を引き起こし、その後、スモールステップで児童の意見を取り入れながら折れ線グラフのかき方を確認したために、全員の児童が最後まで意欲をもち続けて学習することができた。

<授業の実際>

T：これは笠岡の気温です。(表を提示)

C：東京より低い。でも表だと分かりにくい。

C：折れ線グラフだったら、変わり方とかが分かりやすい。(多数の児童が前時までの学習の掲示物を見る。)

T：今日はいつものようにグラフは出さないよ。

C：じゃあ、かくん？

T：そうだね。今日は、折れ線グラフをかきましょう。



全体で折れ線グラフのかき方を確認

練習問題をした後、**ペア**でお互いのワークシートを見ながら、グラフから分かること（読み取ったこと）を伝え合うことにより、グラフを正しくかくことができているかを確認することができた。



**T**: 練習問題でかいたグラフから分かることをペアで話し合しましょう。

**C1**: 2時の気温が一番高いよ。

**C2**: うん、ぼくのグラフもそうなっているよ。

**C2**: 8時から9時の変わり方が一番大きいな。

(既習の掲示物を何度も見る。)

**C1**: 本当だ。2度上がっているから、向きが急になっている。

**C2**: 20度より下はないから、消した方がわかりやすいかも。

## 習得にまっしぐら！～いろいろな方法で繰り返しながら定着を図る～

### 1年「0のたし算」

実物投影機を活用して教師が分かりやすく説明し、**ゲーム・操作活動・書く活動（玉入れゲームの結果を図で表す→式で表す→ブロック操作→友達にクイズを出す。）**等により楽しみながら定着を図った。

ぼくの玉入れの結果は1回目が1個。2回目は0個でした。どんな式になるでしょう？



1 + 0 = 1 だと思います。

合っています。




**【授業の振り返り】**  
何もないものをたしても0なんだね。何もないときは0と書くんだね。

自分の言葉で言ってごらん！

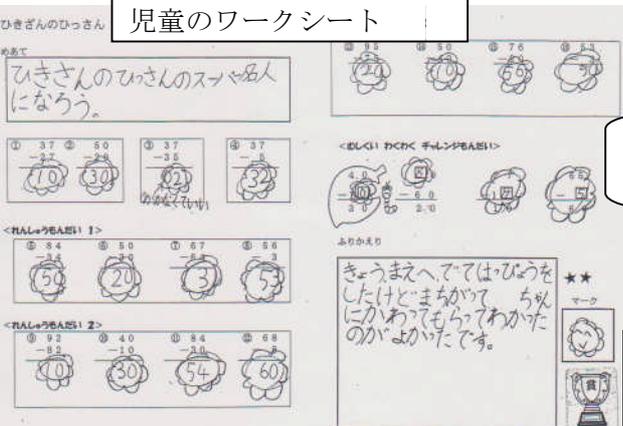
0 + 0 = 0というのは、今日初めてわかりました。



### 2年「ひき算の筆算」

**練習問題1**ができればペアで答え合わせをして**練習問題2**へ、次は**3**へ、そして**虫食い問題**にチャレンジというようにスモールステップで確実な習得ができるようにした。そして単なる答え合わせだけでなく、**筆算のやり方を説明**することで、より確かな習得を目指した。

児童のワークシート



答えが合っていたらマル、やり方がうまく説明できた問題は花マルをつけよう。

答えも合っていたし説明も全部できたよ。

ペアの友達の説明も分かりやすかったよ。

**【授業の振り返り】**  
4番の問題が分からなかったときにグループのみんなが教えてくれたからすごくわかったよ。

みんなの力でスーパー名人になったね！おめでとう！！

Nちゃんがわからなかったとき教えてあげられて、よかったよ。

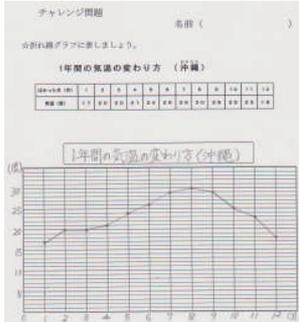




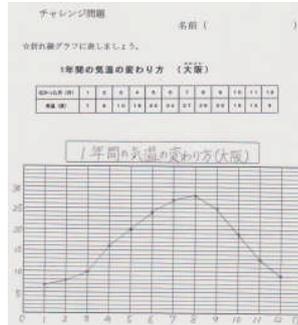
ちょっとはずかしかったけど、みんなの前で説明をしたよ。Kちゃんと答え合わせをしたよ。説明もしたよ。またやりたいな。

## 4年「折れ線グラフ」

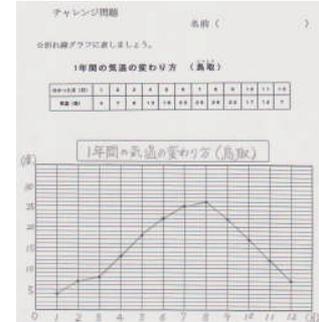
最初にかいた折れ線グラフについては教師がチェックし、一人一人の児童の理解度を確かめてから練習問題に進ませた。練習問題は、複数のチャレンジプリントを用意し、自分が選択した都市のグラフをかくことにより、変化の特徴に関心を持ち、折れ線グラフのかき方の理解を深めることをねらった。



チャレンジプリント（沖縄の気温）



チャレンジプリント（大阪の気温）



チャレンジプリント（鳥取の気温）

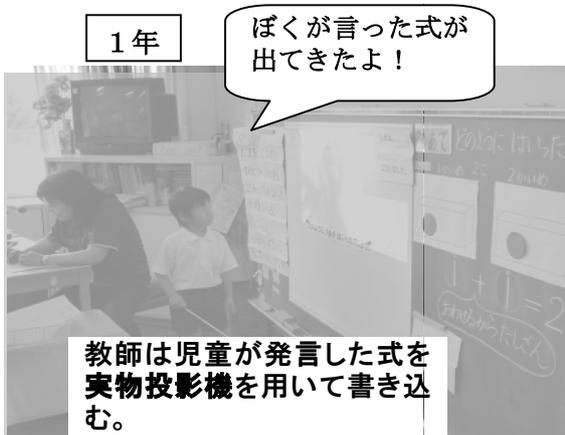
### 【授業の振り返り】

いろいろな市や県の気温が折れ線グラフで調べることができたので、気温の変わり方がよく分かりました。

笠岡のグラフをかいてみて少しむずかしかったけど、自分でかくことができた。もっとちがうのもかいてみたい。

## ICTの活用、教材・教具の工夫で意欲的に習得を！

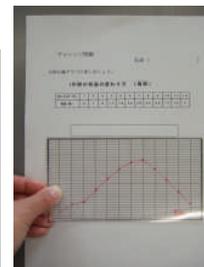
児童に分かりやすく意欲的に習得させるための手立てとして、実物投影機を活用したり教材・教具を工夫したりした。



拡大教具で個に応じた支援



拡大ブロックを移動させて思考の手助けとするホワイトボードの位取り板



答え合わせ用手作り透明シート（児童の折れ線グラフの上に重ねて正しくかいてあるか一目で分かるもの）

教師にグラフのかき方をほめられた児童は、喜んで次のチャレンジ問題を取りに行った。